

## 毎日お茶を入れて、家中に置く…

⇒まずは否定せず、話を合わせましょう

とよさと病院 認知症疾患医療センター

### 【 認知症の人の状態 】

認知症になると、**記憶が現在から過去へと遡って失われていきます**。この場合、記憶が数十年分失われ、現役で働いていたころの記憶の中で生きていると想像されます。会社には毎日たくさんのお客さまが訪れ、お客さんや従業員たちのために、忙しくお茶をいれていたのかもしれませんが。

認知症の人は、あることに**集中するとその意識から抜け出せなくなる**ので、お茶をいれなければという意識にとらわれ続けていると思われます。お茶をあちらこちらに置く原因としては、自分が飲みたいと思って入れたものの、入れたことを忘れて何度も繰り返す、あるいは仏壇に備えるつもりで用意したあと、仏壇がどこにあるかわからなくなり、ほかのところに置いて、またいれるという状況を繰り返す例もあります。

### 【 対応方法 】

①まずは、お客様が来ることを**否定せず、話を合わせましょう**。

そして、お茶から関心がそれたときなどに茶碗を片付けます。何日も放置すると、それを飲んでしまうかもしれないので、なるべく早めに片づけましょう。



「お客さんは来ませんよ」

本人にとっては、来ることは紛れもない事実なので、納得せず、反論します。

湯飲みや茶わんカップの数を減らす

お茶を入れようとしたときに「足りない！」と慌てて、他の食器や洗っていない食器を使うこともあります。

②認知症の症状には、**過去の生活歴**が関わっていることがよくあります。認知症の人の不可解な行動は、昔どのような生活をしてきたかを調べると、原因が判明することがあります。

③水分を欲しがっているときは、脱水や糖尿病など**体調不良**の可能性もあります。自分が飲みたいくて何度もいれているときは、飲みたがっている原因を探りましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P126-129

お茶をどうぞ



お茶はそこに置いてあるじゃないですか

2022.6作成

④ “お茶を入れる” という**行為ができて**いることを**尊重**しましょう。時間に余裕があるときは、「私にも入れてください」とお願いして、一緒にお茶を飲むといいでしょう。



⑤ その他の常同行動（特定の行為や行動を何度も繰り返す）に対しても否定や非難は禁物です。本人が心から望んでやっているのではなく、病気が起こさせているのです。「また同じ事をやってる！」などと言わず、**行動を受け入れ、さりげなく対応**しましょう。糖尿病など持病がある人は、食行動異常によって病気が悪化することもあるので、この場合は、医師に相談しましょう。

※常同的食行動異常…決まった少数の食品や料理にこだわります。毎日同じ食品を買ってくる、毎日同じ料理を作る、同じ銘柄の飲み物だけ飲むなどの行動がみられます。甘いものや味の濃い物を好み、大食いになるという報告もあります。

⑥ “同じことを繰り返す” という症状を利用し、パズルや編み物など繰り返しが必要な**趣味**や、作業などを**日課**に取り入れたり、デイサービスに通ったりして**生活をパターン化**させると、問題行動が軽減されることがあります。

⑦ 常同行動は、一般の人から見ると、ワンパターンの生活で退屈に思えるかもしれませんが、前頭側頭型の認知症の人は、**変化や刺激を嫌う**ので、旅行や突発的なイベントには誘わないようにしましょう。いつもの場所や人など、なじみのある、**落ち着ける環境や関係**が必要です。部屋も音、光、においなどに注意し、刺激の少ない環境にしましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P126-129

2022.6作成



認知症疾患医療センター  
TEL 029-847-9581